

小学校 ICT 活用授業 児童のプレゼンカコンテスト

学校 (団体)	フリガナ シズオカ		フリガナ ミツカビニシ ショウガッコウ	
	静岡県	都道府県 立	国都道府県市立 区組私	三ヶ日西 小学校
指導 教員 名	姓	名	担当学年、クラス名	
	フリガナ キクチ	ヒロシ	3 年 3 組	
	菊地	寛		

単元タイトル 「北海道の3年生に静岡の食べ物のひみつを教えよう」

～お互いに、特産物について教え合おう～

単元のねらい

学習指導要領の「書くこと」の「ア 相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。」「イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。」の2点を押さえた。静岡のことを知らない交流校（北海道）の3年生に、静岡の特産物について教えるために、食べ物の姿が変わり方や工夫について本や資料で調べ、自分の考えがはっきりするように段落相互の関係に気を付けて文章を書くことができることをねらいとした。そして、書いたものを相互にプレゼンし合い、感想や意見交換をし、交流することをねらった。

児童のプレゼンカやコミュニケーション力を育成するために工夫した点

伝える相手が、交流校であることを声掛けやワークシートへの書き込みなどで常に意識付けを行ったことにより、思考錯誤しながら伝える相手にとって分かりやすい文章、プレゼンにすることを心掛けることができた。一人一人が書いた文章をグループの中で一つの文章にまとめる活動では、添削ではなく良い表現だと思う文に赤線を引き合い、互いの考えを認め合いながらグループごとに1つの紹介文を完成させた。また、完成したスライドを基にしてプレゼンをビデオに録画をし、自分たちで視聴をし、スライドの使い方、話し方などを確認し、ブラッシュアップをしてプレゼン力を高めた。

ICT 活用とその工夫した点

グループの人数を3人とし、PCを2台使用することにした。1台のパソコンでプレゼンを作り、もう1台で情報収集や画像の加工などをするようにした。残りの一人は、それぞれの作業のアドバイスや手助け役とし、全員に役割をもたせ、協同学習を行った。小3ということもありパソコンスキルがほとんどない子どもたちだが、「ピッケ」の操作の簡単さもあり、どの子も負担なく作成することができた。特に、文字入力ローマ字を習い立てでもあり、キーボードと手書き入力のどちらかで行うことにした。

ICT 環境 (PC, ネットワーク、コンテンツ、周辺機器)

パソコン室 (デスクトップ PC)、ペンタブレット(wacom)、電子黒板、「ピッケのつくるプレゼンテーション」

教科単元	国語「食べ物のひみつを教えます」	対象学年	3 年	総時間	15 時間
------	------------------	------	-----	-----	-------

単元計画（単元の流れと実践の内容を記入してください。）		
導入 授業時間 (1～4)	学習内容 教材文「すがたをかえる大豆」（光村図書）を読み、「はじめ」「中」「終わり」で説明されていることを整理しながら、文章全体の組み立て方をとらえる学習を行った。その際、段落の順序や中心となる文がどこなのかを確かめることを主なねらいとした。そのことが、「静岡の食べ物のひみつを教えます」で、自分たちが書くときに、中心となる文を落とさずに書くことにつながることを意識させた。	
	使用した ICT 機材 電子黒板 デジタル教科書 (光村図書)	活用のねらい・工夫 中心となる語や文をとらえるために、デジタル教科書を活用した。中心となる語を探すことは実態としてまだ難しいが、不必要と思われる箇所を探すことは安易にできる。そこで、デジタル教科書の本文画面で大事ではないと思えるところを子どもたちに白色マーカーで塗りつぶさせ、残った文章から中心となる語や文を洗い出すようにした。
	展開 授業時間 (5～8)	学習内容 グループで一つ「静岡の特産物」を選び、食材がどのように姿を変えて食品になっているのかをインターネットや本を使って調べた。教材文を手本とし、調べたことを生かして「はじめ」「中」「終わり」の構成になるように全員が「静岡の特産物」の紹介の文章を書いた。一人一人が書いた文章をグループでの話し合いによって、互いの意見を認め合いながら一つの文章にまとめた。
	使用した ICT 機材 パソコン スキャナ 電子黒板	活用のねらい・工夫 インターネットや図書室から必要な情報を取捨選択するには、実態から考えてまだ早い段階であると考えたので、リンク集と必要な資料を教師が用意して、まずはその中で自分たちに必要な情報を選んで使うようにした。また、文章だけでは伝えにくいものもあるので、説明を補うために使う写真も選択させた。
展開 授業時間 (9～13)	学習内容 グループで完成した「静岡の特産物」を紹介する文章から、「ピッケのつくるプレゼンテーション」を活用してプレゼン用のスライドを作成した。3人で協力して、役割分担をしながら作成をした。また、口頭だけでは伝わらないところには写真やイラストを入れたり、スライドの中に大事な言葉を書き込んだりして分かりやすいプレゼンを作った。	
	使用した ICT 機材 パソコン ペンタブレット (wacom)	活用のねらい・工夫 大人向けのプレゼンソフトに比べて、「ピッケのつくるプレゼンテーション」は操作が簡単で、本質的なプレゼン以外の操作が少ない。そのため、大事なことをいかに分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか考えさせることができた。文字入力については、ペンタブレットを併用して使うことで、どの子も負担なく入力することができた。
	まとめ 授業時間 (14)	学習内容 できあがったスライドを印刷し、グループ内で伝わりにくいところはないか確認をし修正をした。また、スライドを基に発表したところをビデオで撮影をし、互いにアドバイスをし合い、ブラッシュアップをして、再度プレゼンをビデオ撮影した。撮影したビデオは、交流校と交換をした。
	使用した ICT 機材 パソコン 電子黒板 SD カード ビデオカメラ	活用のねらい・工夫 プレゼンの様子は、発表者自身では分かりにくく、相互評価でも本人が実感できず修正できないことが多かった。そこで、プレゼンをビデオ撮影をし、実際に発表者もその映像を見ることで、話し方、目線、資料の使い方など確かめることができ、どうしたら伝わりやすくなるのか考え、修正することができた。

ふりかえり	学習内容	
授業時間 (15)	<p>「北海道の3年生に、静岡の食べ物のひみつを教えよう」の学習活動を振り返った。交流校と自分たちのプレゼンの様子を比較し、手紙を通して意見交換をした。手紙で伝えた相手から評価が返ってくることは子どもたちにとっても大きな学びとなった。また、それぞれの学校のプレゼンの違いや良さを見付け、分かりやすいプレゼンのコツについても確認した。</p>	
	使用した ICT 機材	活用のねらい・工夫
	<p>パソコン 電子黒板 ビデオカメラ</p>	<p>ビデオは、児童の顔や名前が明らかのためネット上に置くのではなく、SD カードに保存し、交流校と交換をした。それぞれのプレゼンの様子を分かりやすいプレゼンはどういうものかという視点で、視聴をした。視点を与えたことで、内容面だけでなくプレゼンスキルにも目を向けて視聴し、活動を振り返ることができた。</p>